

Topic

石川で開かれる「地球サミット」

碓山 洋

6月にブラジルで開催される「地球サミット」(環境と開発に関する国連会議)に呼応し、「地球サミット in 石川」が5月30日から6月7日まで金沢で開かれることになった。実行委員会には環境問題にとりくんでいる県下のさまざまな市民グループ、団体のメンバーが、個人の資格で参加している。

「地球サミット」を前にして全国で市民の手によるさまざまなとりくみが行われているが、この「サミット石川」は企業や行政に関わる人たちの参加を特に重視している点でユニークだ。青年会議所石川ブロックの環境問題委員会委員長もよびかけ人に名を連ねている。これまでともすれば環境問題をめぐっての市民と行政、企業間の対立のみが強調されがちであった。また市民グループの間でも、協力の可能性よりも、環境問題のとらえ方やそのグループの終極目標、とりくみ方の相違が強調されてグループ間の連携がなかなかすすまず、場合によっては対立さえするという傾向もなかったとは言えない。そのような中、市民グループ、企業、行政に関わる人々が立場の違いを越えて、この石川でいますぐとりくめて実効性のある行動提言『石川の環境憲章』をつくるために共同のラウンドテーブルにつこうというのが、この実行委員会のよびかけだ。『憲章』の案を用意しておいたりあらかじめ議論の方向づけをしておいてそれに賛同できるグループ、個人を集めようというのではなく、実行委員会はラウンドテーブルの準備と『憲章』づくりの調整役という、いわば裏方の役割にまわるのである。

「サミット石川」の9日間の内容、おすすめ方もユニークだ。『憲章』にまとめるテーマ

を①人・街・リゾート②ゴミ・リサイクル③エネルギー④水と緑⑤国境を越える問題の5つとし、それぞれに作業部会を設ける。初日に総会を開いたのち作業部会を1週間開く。部会は、それぞれの創意と工夫で、独自に講演会や勉強会なども織り込みながら提言づくりを進める。部会には誰でも参加できるし、金沢まで来なくても地元のグループで討論した内容や自分の考えを手紙やファックスで部会に提案することもできる。どこでも、誰でも、何人でも『憲章』づくりに参加できるというのが「サミット石川」の特徴だ。作業部会の要請に応じてミニ講演会を引き受けたり、資料を提供したり、アドバイスをするなど、専門知識を活かして「サミット石川」の成功に協力しようと「『地球サミットin石川』をサポートする研究者グループ」も結成された。最終日には『憲章』発表大会と初代環境庁長官・大石武一氏を招いての講演会が行われる。

身近な地域の環境はまちがいなく地球環境の一部であるし、地球環境を守るためには地域で環境を守るために考え行動することがまちがいなく必要だ。美しい自然環境を持ち、同時にゴルフ場開発やゴミ問題、原発など議論すべき多くの問題も持っているここ石川で開かれるもうひとつの「地球サミット」—この試みは、今後の日本の環境問題へのとりくみにとって大事な示唆を与えてくれるにちがいない。

〈連絡先は金沢大学経済学部・市原あかねさん(0762-45-7891)、地球の友金沢・渡辺寛さん(0762-37-7547)〉

(金沢大学経済学部講師)